

# 公民館報 まつもと

発行  
2021  
5/30

- 問い合わせ 中央公民館  
TEL 32-1132 FAX 37-1153
- 編集 公民館報編集委員会
- 印刷 株式会社プラルト



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 55

## ササガオシドリ桜が咲き誇る!!

オオシマ桜とオシドリ桜が交雑した新種の桜  
1992年に命名され、笹賀地区で苗木を育てて、少しずつ増えている



表彰状を囲む会員の皆さん

各グループは、毎月第二火曜日19時の定例会で、何をやりたいか話し合い、決めた内容を発表します。松

地域づくりの取り組みにつながる公民館の学びの活動成果を評価・顕彰することにより公民館活動を活性化するため、学びと自治の力を発揮した活動に対し表彰するもの

### 公民館活動アワードとは

長野県教育委員会主催の令和2年度公民館活動アワードを、入山辺地区の団体「こんな山辺にするじゃん会」が受賞しました

### 活動内容

平成23年の11月、住んでみたい・訪れてみたい入山辺区を目指す住民主体の地域づくりを進めるため、「入山辺地区の将来ビジョンを考える会」を立ち上げました。住民に親しみをもってもらうため愛称を募集したところ「こんな山辺にするじゃん会」に決まりました。34人で始めた活動が10年を迎え、会員は100人近くになりました。

で、令和元年より実施されています。

# 「こんな山辺にするじゃん会」公民館活動アワード受賞



13本の柱には町名が...

団体の中澤代表は「会員の豊富な知識や経験、知恵を集めて、毎年いろいろなことに挑戦しています。20年、30

### 先を見据えて

打ち講座などを開催しています。また、観光のグループでは、山辺ワイナリーの敷地を借り、会員が作製した入山辺マップと会で開催する催しの案内看板を設置しています。

本大学の白戸教授も参加しています。毎月の定例会に、大勢の会員が参加することも評価されたひとつだそうです。グループには観光・食農・住みやすい地域・DIYなどがあります。例えば食農のグループでは、機械を使わず手作業でお米やそばを栽培し、公民館活動と連携して、そば打ち講座などを開催しています。

## 松本さんぽ

### 〈笑顔の効能〉

幸せだから笑顔なのではなく、笑顔だから幸せなのだ。笑うことで幸福度がアップする。そしてその気持ちが人から人へ広がる。豊かな人生を送るためには笑顔のキャッチボールがとても大切だ。春の街で、私は彼女たちから幸せをもらった。

(撮影：2021.4.25 中町)



昔ながらの手植えで米作り

年先を見た地域づくりを目指す中でこの会を立ち上げました。これからも参加者を増やして、入山辺を好きになって、住んでみたいと思ってもらえるような活動を続けていきたいと思えます」と話していました。



▲ するじゃん会フェイスブック



▲ するじゃん新聞(ホームページ)



▲ するじゃん会ツイッター

# まじやとんかの井戸

54

鯛萬の井戸

時代は変われど今も人びとの生活に根ざした湧水

## 花街として栄えた下横田町

江戸時代には潤沢な湧水を利用した紙すきや足袋作りなど、主に職人の町として栄えた下横田町。明治に入ると置屋60軒に芸者300人を数える松本有数の花街として名をせました。夕方にもなると現在の裏町本通りは、多くの



整備前の「鯛萬の井戸」(撮影:1997.12.28)



多くの人が訪れる憩いの井戸 (撮影:2021.2.20)

酔客で肩が触れ合うほどの賑わい。町のそこかしこでは朝方まで三味線の音色が絶えなかったそうです。その頃「鯛萬」という料亭の建っていた場所にこの井戸はあります。

## 多くの人が訪れる憩いの場

安定した水量が得られるよ

う、平成15年に10mほど東の現在地へ移動し、30mだった水深は50mまで掘り下げ、ポンプでの汲み上げ式に変更されました。井戸枯れの心配がなくなり、周囲も公園に整備されました。生活に根ざした場所は爽やかな憩いの場ともなり、地域外からも清涼な水を求め多くの人が訪れます。

元町会長の中島さんと前町会長の巢山さんは「井戸の豊富な水を皆さんに使っていただき、とても感謝しています」と笑顔で話してくれました。

安原地区公民館・福祉ひろば開館20周年を迎え、二十周年記念誌「あさば野」と、安原地区公民館報合冊版「ゼンこうじみち安原」を作りました。「あさば野」は、地域の行事や活動の記録をフルカラー36ページに収めました。

記念式典と記念誌の計画は2年前から、安原地区まちづくり協議会に記念誌編集委員会を設置して、準備を進めてきました。地区内町会役員経験者などのメンバーが公民館活動を支えています。コロナ禍で記念式典は中止になりましたが、安原地区の多彩な活動の原動力は、地域全体の支援の存在です。



記念誌を持つ藤野館長と板花主事

## わがまち自慢(安原地区) 開館20周年記念誌発刊

### おこひる

2020東京オリンピック・パラリンピックの開催を期待したい。コロナ禍での開催に賛否両論があることは承知しているが国民に勇気と希望をもたらしてくれることを望む▼1964年に開催された東京オリンピックは私が小学生のときだった。担任の先生が校内にあったテレビを見せてくれた。中でも記憶にあるのは男子体操の遠藤幸雄選手。ピンと伸びた脚線美が素晴らしく、団体、個人総合、平行棒で金メダルを手にした。「東洋の魔女」といわれた女子バレーボールも鬼の大松監督のもと金メダルに輝いた▼これを契機に、日本のスポーツは国民スポーツとして発展していく。地元の神林に目を向けるとJ1昇格を目指す松本山雅サポーターの応援が熱い。試合の日は緑の応援フラッグが山雅街道の風に揺れる▼新緑の季節を迎えた。水田が青田に変わり、雪を抱いたアルプスの峰々を水面に映す。ウオーキングやスポーツにはとても良い季節だ。さあ、出かけよう。新調したシューズのひもをキュッと結んだ。



馬場家住宅と芝桜

### 地区の概要

内田地区は市の南東部に位置し、9町会があります。令和3年4月1日現在、985世帯、人口2327人です。高齢化率は30・5%で市平均より若干上回っています。

内田地区は、中山・松原・寿・寿台、寿各地区と接し、南は塩尻市と隣接。東には、高ボッチ山を背にして西になだらかな傾斜地になり、北ア

# 歴史探訪 探ろう松本22

## 内田地区

緑豊かな扇状地に新旧住民が暮らす田園地帯

ルプスを背景に松本盆地周辺が一望できます。特に夜景は圧巻です。

### 半世紀前の出来事

昭和35年に、旧片丘村の北内田の住民で、塩尻市からの分市と合わせて松本市への合併の賛否を問う住民投票が行われました。結果として、分市と合併が決まりました。翌年、塩尻市南内田から分離した崖の湯が松本市内田に入り現在に至りました。

### 文化財の宝庫

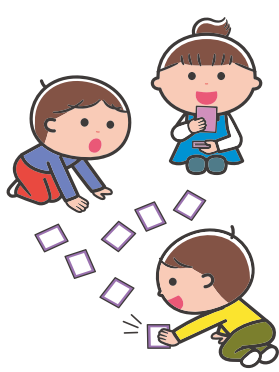
数多くの文化財の中で、特筆すべきものとして、国の指定重要文化財馬場家住宅や同じく牛伏川のフランス式階段工、国・県・市指定の牛伏寺の仏像群・建物・仏具ほかがあります。また、松本市重要無形民俗文化財「内田のササラ踊り」があります。同じく「内田のおんべ祭り」は、疫病や災いを防ぎ、豊作を願う小正月の伝統行事です。



内田めぐりかるた

### 今後の課題

松本市への合併60周年を記念して、福祉ひろばの利用者の提案で、御当地カルタを出すそうと平成20年5月からスタート。令和3年3月完成しました。丸山明良内田公民館長(兼内田カルタ作成委員長)によれば、地域の名所・旧跡・伝統行事などを楽しめると同時に、内田の自然・歴史・文化などを次世代へ残したいという願いを込めた活動であると話しました。今後、いろいろな場面で活用されることが期待されます。



## 松本平の野鳥たち

全長13.5cm。小さな細身の野鳥。くちばしは細長くて湾曲している。尾は長め。樹の幹に縦に止まり、樹皮の間や割れ目にひそむ虫や虫の卵を食べる。幹の下の方からラセン状に餌を探しながら上に登る。アルプス公園でも見ることができる。



キバシリ



(撮影:2021.2.27 松本市)

### これなあに?

## 国宝松本城天守6階

天井の井桁に組まれた太い梁の上に「桔木」が放射状に20本並んで

います。これは重い軒先を支えるの原理で支える日本独自の構造です。



その奥に見えるのが松本城の守り神「二十六夜神」です。その昔正月26日の夜、天守番の侍にお城繁栄のお告げがあり、以来毎月26日にお餅を供えました。現在はこの伝統を松本古城会が受け継ぎ、年に一回餅つきの行事を行っています。